



・会長

会議に先立ちまして、傍聴者の皆様にお願ひ申し上げます。会議を傍聴されるに当たりましては、東村山市地域公共交通会議の傍聴に関する定め、第4条に基づき、遵守事項をお守りいただきまして、会議の進行にご協力いただきますようお願いいたします。

それでは次に、委員の出欠について、事務局に確認します。

・事務局

当会議の委員16名中、9名出席、7名が欠席となっています。出席者が、過半数以上となっていますので、会議の成立要件は満たしています。以上です。

・会長

委員16名中9名の出席で、東村山市地域公共交通会議条例 第5条 第2項の過半数の出席という成立要件を満たしていますので、ただいまより、平成27年度 第2回 東村山市地域公共交通会議を開会します。

2. 議題

・会長

前回に引き続き、子ども向けの長期休暇割引と東村山市の公共交通マップ。この2つの利用者サービスについて、検討したいと思います。事務局から説明をお願いします。

資料の説明<利用者サービスに関する検討>

・事務局

<資料1>利用者サービスに関する検討

運賃に直接関係する利用者サービス(子どもの長期休暇割引)

	実施時期	割引内容
設定案	春休み (3月21日~4月10日)	・小学生50円(現金) ・大人1名につき子ども1名が無料 など
	夏休み (7月15日~9月5日)	
	冬休み (12月20日~1月11日)	

小学校によって、長期休暇期間が異なるため、一般的な長期休暇の期間に、前後5日程度を付加した設定案としている。

【参考1】	IC利用者のみ			
	大人	子ども	合計	割合
平均	17,748人	277人	18,025人	1.55%

直近の4~6月の子どもの利用状況(西武バス提供ICカードの利用データ)

【参考2】	実施時期
西武バス 休み期間 こども運賃 現金50円	春休み (3月26日~4月5日)
	GW (4月26日~5月6日)
	夏休み (7月19日~8月31日)
	冬休み (12月25日~1月7日)

西武バスが実施している同様の割引制度。

運賃に直接関係しない利用者サービス（市内の公共交通マップ）

	規格等	掲載内容
設定案	大きさ：A 1 版 （折りたたんで A 4 版）  印刷：両面刷り	・ 運行本数によって、線の太さを区別する （市内、隣接市を通るバス路線） ・ 主要バス停のりば案内図、時刻表（市内にある起終点） ・ 分かりやすいバスの利用方法 ・ 公共施設、スポーツ施設、観光名所等（QRコード付） ・ 1日乗車券を活用した、季節ごとのミニ観光ルート

<資料2> 東村山市公共交通マップ デザインイメージ（案）  
 実際のイメージを4分の1に縮小したもの。予定の大きさはA 1 版。

表面				裏面
表紙	ご利用案内	各バスの運賃	お問い合わせ先	東村山市公共交通マップ【地図】
市内の主要駅発バス停の時刻表				のりば案内 産業・観光などのスポット表示

【地図】は、あくまでもレイアウトの参考。  
 折り方や掲載内容の検討を。  
 一覧性を重視した1枚タイプ（今回の資料）と、冊子タイプがある。

<資料3> グリーンバス乗車数と収入（5月実績比較）  
 運賃改定の前後での乗車数と収入の比較として、1年間分の最終となる。  
 乗車数は、3路線ともにマイナス。合計8,228人減（-24.3%）  
 収入は、全路線プラスで、1,476,980円増（+57.9%）  
 収支率は、52.4%（+17.8%）

<資料4> グリーンバス乗車数と収入（運賃改定前後1年間の実績比較）  
 乗車数は、全路線で100,036人減（-23.2%）  
 収入は、全路線で12,320,909円増（+31.5%）  
 収支率は、53.7%（+8.6%）  
 平成27年6月1日から導入した1日乗車券の実績は、6月は6枚、7月は36枚。

運賃に直接関係する利用者サービス（子どもの長期休暇割引）

・会長

今回の交通会議の開催状況によっては、子どもの長期休暇割引の冬休みからの実施がギリギリになったり、あるいは、間に合わなかったりしかねないので、できれば今日、期間と内容について、皆さんから意見をいただいた上で、合意まで進められればと思っています。

まず、割引内容について、今ここに挙がっているのは、小学生、現金50円。これは、西武バスが実施しているサービスと同じ形です。もう1つ候補として、大人1名につき子ども1名無料がありますが、何か意見・質問等ありますか。

・委員

この「子ども」は、就学前の小さい子ですか？ 小学生ですか？

・オブザーバー

小学生ですね。通常、「子ども」という表現では、大人に同伴される未就学児が一緒の場合は無料で、お子様だけで乗られる場合は、運賃を収受しています。

この「大人1名につき子ども1名が無料」というのは、運賃を収受されるお子様が、大人と同伴する場合のことで、多分、隣の小平市でやっているサービス「ファミリー割引」と、同じ内容だと思います。

・会長

ここで言う「子ども」は、小学生という意味ですね。

・事務局

そうです。

・会長

未就学児は、元々、大人が同伴する場合、無料の扱いですから、別にわざわざ記載する話ではないということで、ここで言っているのは、本来であれば、半額運賃を支払っている小学生について、大人1名につき無料にしようということが書かれているとご想像ください。

・事務局

ここに載せている割引内容は、これまでの意見が出たものを載せているので、こういう内容がありませんという、例になります。

・委員

ねらいを何にするかが、まずはあるのではないかと思います。50円という意味で言うと、やはり将来のお客様になる小学生、全員に対して、大人に同伴したお子様というのは、特にこういう期間、市内の名所・旧跡回る、あるいは、何らかの社会教育といったことも含めて考えるというねらいもあるかと思う。どういうねらいでやるか。そちらを先に考えたほうが良いかと思います。

・委員

今の話を受けて、例えば、小平市の場合、1日乗車券や回数券を買っていると、市内の協賛しているお店のサービスが受けられる。それが町の中の活性化に、どのくらいつながっているか分からないが、つながろうという意志は感じられるし、実際に、町の中でお金も人も回るシステムを作ろうという感じがするので、やはり本当はそこまで考えないといけないですね。

例えば、菖蒲まつりだったり、大きいところで産業祭だったり、そのときに若干の割引があるなど、せっかく市のバスなので、市がやっている大きな行事と絡む設定の仕方も良いのかなと思いました。

・会長

まず1つは、どういう目的で、どんな割引が適切なのかという問題と、もう1つは、現実に、西武バスで子ども現金50円をやっている中での整合性や分かりやすさ。つまり混乱を招かないためには、どうしたら良いのかが問題なのだろうと思います。

・委員

そもそも、春休み・夏休み・冬休みという期間に、子ども乗車率は、増えますか。それとも、変わらないですか。

それこそ春休み・夏休み・冬休みは、基本的に、グリーンバスに親子で乗る割合が多いのか、それとも、子どもだけで乗る子が結構多いのか。

そういったことでも判断が違いますが、どうでしょうか。

・会長

例えば、去年の8月のデータは、どうなっていますか。

・事務局

すみません。データを用意してないです。

以前から、なかなか内訳が拾いにくいのが、このバスの乗車内容です。乗った区間、乗り換えた状況、乗車回数などは、実際に乗車してアンケートを取るなり、お聞きしないと、情報として集まりにくい内容となっています。夏休みの期間についても、これまでも調査等したことがないので、手元には、データがありません。

・委員

子ども同士の使い方を想定すると、「大人1名につき子ども1名が無料」は、使いにくいと思います。

・委員

大人1人に子ども1人が無料は、いつも、そうですか？ ここに書くと、かえって混乱するので、単に「子どもは、夏休み・冬休み・春休みは、50円になるだけ」のほうが、分かりやすいと思います。

・委員

これは、小学生50円、現金となっていますが、もし大人と一緒にいった場合には、大人は普通に180円払って、それで子どもが50円。だから、大人1名につき小学生1名無料は、要するに、両方同じにしてしまえば良いので、大人は、普通に料金を払いなさい、子どもは50円とすれば良いと思う。

・委員

私の考え方としては、やはり機会を増やすという意味で言うと、誰でも50円で乗れるという動機付けのほうが、広がり大きいのではないかと思いますので、そういう意味では、50円を考えたいと思います。

・委員

元々、一般路線バスの小児運賃割引キャンペーンは、将来のバス利用の促進を図るために、事業者が全額、その割引分を負担して実施しています。これについても、同じ目的で良いのかなと思いますが、実際、コミュニティバスという特性上、その減額された分の原資は、市が負担するということが良いのでしょうか。事業者負担になりますか。

・事務局

コミュニティバス事業ですので、運賃については、事業者の収入や、採算になります。直接的には、運賃収入に影響してくると思いますが、間接的には、事業費との差額分を、行政が補助金として交付の対象としていますので、結果的に補助金で補てんすることとなります。

ただ、湯水のごとく、税金が投入できるかという問題がありますので、それは、期間・時期・目的も含めて、この中で十分に確認をさせていただければありがたいと思います。

・委員

その確認が取れていれば、私は、できれば西武バスと同じ期間のほうが良いと思います。西武バス独自で、春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みと年4回やっていますので、逆に利用者にしてみれば、この期間だけ外すことによって、混乱を招くことにつながるのではないかと思ったものですから。あえてゴールデンウィークを外す理由が何かあるのでしょうか。

・事務局

確かに、西武バスは、ゴールデンウィークも実施していますので、そこと違いが出てしまうと、利用者が少し混乱することも考えられます。逆に、あえて理由があって外したわけではなく、今回は、子どもの長期休暇という考え方で、春夏冬としました。

・委員

特に今回、ゴールデンウィーク期間の割引は、検討されないということで、よろしいですか。

・事務局

特にゴールデンウィークの設定は、現段階では、考えていません。

・委員

言われてみれば、同じほうが分かりやすいかなというのが実感です。

秋津町に住んでいる友人も、子どもの塾やスイミングクラブなどで、毎日のように久米川駅方面に行くので、本当に50円は、当時助かったと言っていました。中学生になったら、すごい料金に困ってしまったという話は、実際あるので、例えば、スポーツセンターに行くにしても、50円だと毎日行ける感覚になると思います。やはりそれは、すごくありがたいことで、乗る人にとっては、バスという同じ感覚です。

私も最初は、この設定案のように、若干長いほうが良いと思いましたが、こっちはまだ50円で乗れるのに、こっちはもう50円で乗れなくなってしまったというよりは、分かりやすいことも大事ですから、日程も統一したほうが良いと思います。

・委員

結局、横並びが分かりやすく良いと思います。

ただ、行政の立場から言うと、割引期間が長くなればなるほど、基本的に、おそらく持ち出しが増えると思います。サービスとしてはもちろん、市民にとって割引期間が長いのは一番良いことですが、それだと当然ながら、多く補てんしていかなければならない。それは、皆さんの税金から出ることになりますので、その辺のバランスだと思います。全部が全部、横並びにする、ただそれで良いのかという話になります。

・委員

そうですね。西武バスは、ゴールデンウィークが入っていますが、お休みの期間としては、実際に西武バスが今やっている期間のほうが、短いですね。短いから良いかという、それも簡単には言えないことですが、どうなのでしょう。

・委員

逆にその判断として、例えば、小学生50円を、西武バスと横並びにした場合の想定、どれだけ市として持ち出しが出てしまうのか。それは、持ち出しとして出せる、市の体力の範囲内なのかという議論は、今は判断のしようがないですが、何でもOKですとなれば、どんどんサービスを増やしてしまえば良いだけです。そうではないと思うので。

・オブザーバー

あえて参考1という、比率のパーセンテージを市が資料として出しているのは、利用者の中に占める子どもの割合が、とても少ないからだと思います。おっしゃったとおり、金額は見たほうが分かりやすいですが、市としては、それほど大きな持ち出しにならないだろうという根拠資料のために、参考1を付けていると認識しています。

・委員

資料として出せないのかは分からないが、実際問題、実質、市として、財政からどれくらい単費を出しているのかは、オープンにすべきではないですか。

・オブザーバー

それは必要です。

・委員

要するに、50円だったら、この金額だけだが、大人1名に子ども1名無料という、市としての独自性も出すと、金額がここまでいってしまうという資料は、あってしかるべきでしょう。それを見て、皆さんで、ここまでやって良いのではないかという判断をするのではないかと思います。

・オブザーバー

もう1つは、基本的な考え方として、市のコミュニティバスなので、未来の利用者を育てるという意味で、収入の問題ではなく、欠損分以上に、お客様の数が増えることに意味があるという、とらえ方もあると思います。そういう考え方も含めて、バランスをどこで取るかという部分だだと思います。

・委員

その判断材料として、そこまで負担しても、やはり割引を増やすべきかという話だと思います。やはり基本的に財政は、お金がないと回っていきませんし、お金の源は、基本的に皆様の税金でしょう。結局、話が財政にいつてしまう。その資料を出せないのかどうかは知りませんが、そういう判断ができる基本的な資料がないので。

・オブザーバー

資料を出せないことはないと思います。一方で、純粋な減収分は、多分、お客様にその差額分、40円なら40円を掛ければ出てくると思いますが、予測値として難しいのは、例えば、割引施策をやったことによって、お客様が増える可能性をどう見るか。その辺りをどこまでしっかりした試算として市が出せるかは、少し難しいと思います。

・委員

行政の立場から言うと、市では、このバスだけではなく、いろいろな事業をやっています。バスに財政を投入するということは、どこからかその分を持ってくるわけです。財政の枠は1つですし、歳入が増えない中で、歳出を増やすということは、例えば、教育費から持って来る、公共事業を減らすなど、はっきり言ってしまうと、そういう方法しかありません。これは東京都も一緒ですし、そういう世界です。それでも、やむなしで、これで行こうという判断をするかどうかです。

・委員

少しうがちすぎですが、値上げによって出ているプラス部分で、さらに新しいサービスの開発をしようというねらいも、あったかと思いますが、予算面で非常に障害が出るということは、ないと思います。

・会長

運賃改定等にかかわるサービス展開という側面は、確かにあります。今回、検討している利用者サービス自体が、運賃改定等によって、ある程度、利用者負担をしていただく代わりに、サービスについては、いろいろ検討していこうというところで、スタートしていますので、原資をどこに求めるかという点では、当面、増収分からの捻出と考えて良いのかなという感じはします。

このサービス自体の試算はしていますか。

・事務局

はい。この設定案の期間で、仮に子どもの割引運賃を50円とした場合、子どもの乗車数が今と変わらない状態で試算しています。

今の状態で、子どもの運賃収入が、約9万3千円となっていて、50円を設定案の期間で実施した場合には、その分が、約6万3千円になりますので、約3万円の減収というイメージです。

今の子どもの運賃収入を維持する場合、子どもの利用が、年間600人ほど増えれば、今と変わらない運賃収入となります。

・会長

試算をする場合は、どうしても確実なところから行くしかないもので、この現行の子どもの数そのままの場合にこうだという説明しか、おそらくはできないと思いますが、では実際、小学生50円をやったときに、新たな利用者がどれくらいかを考えると、全然ないということもあり得ない話なので、減収分、つまり負担がどれだけ増えるという話が、そのままにはならないだろうということと言えます。

だから、その割引内容を考えるときに、どういうやり方が一番、利用者の利用しようという動機付けになるのかという辺りだと思います。

・委員

元々の目的にもよりますが、正直、この割引をやったからといって、何かに対する期待値が大きく増えるという感じは、あまりしないので、分かりやすく小学生50円で、期間も西武バスと合わせて、グリーンバスも同じことやっているという印象のほうが、意味があると思います。

小平市が、こういうサービスを実施していますが、実際にこのサービスが使われている利用率は、どのくらいですか。現時点で持っているルートで、保護者と一緒に小学生が乗るか。意外に乗るかもしれないですが、何か意味があるのかなと思ったので。

・会長

小平市が実施した意味は、おそらく、いわゆるファミリー割引的な、家族で利用してもらおうという意味合いでの設定だと思います。ただ、実際どのくらいの利用実数かは、私もきちんと確認していませんが、そんなに目立って利用があるということは、ないと思います。そういう意味では、これが、どれくらいの効果があるかということ、そんなに大きな比率には、ならない感じはします。

・委員

確かに爆発的な利用が発生するということは、考えられないと思います。

・委員

小学生50円は、良いと思いますが、大人1人につき小学生無料は、いらないのではないかと思います。

その理由の1つは、小学生になると、1・2年生の場合を除いて、親子では、そんなに行かないかなという気がするのが1つと、夏休み・冬休みは、1人でというより、お友だちと一緒にいくことが多くなると思います。バスに乗って行けば、自転車で行くよりも安全だし、往復しても100円で、プールに行こうが、図書館に行こうが、大してお金もかからない。それなら、お友だちと一緒に行っておいでという形になると思います。そういう感じで、小学生50円は、アリではないかと思います。

それから、無料という政策は、基本的に良くないと思います。それは医療費でも何でもそうだと思いますが、何でも無料と思うのは、大きな勘違い。使った分を全部負担しろとは言わないし、全額払えないとしても、やはり基本的に、これを使ったという意味で、応分の負担はしなければいけないと思うので、無料は良くないと思います。

・委員

参考1は、子どもがIC利用で乗った人数でしょうか。

・事務局

はい。

・委員

そうすると、もしICだけではなくて、現金でも子どもが乗ってくるようになると、もっと人数が増えると考えられますか。設定案では、小学生が現金で50円ということですが、子どもがICで乗るのは、どういうケースでしょうか。

・委員

今は普通にPASMO、Suicaに乗っているのでは。現金で50円なのは、IC対応ができないからではないのでしょうか。子どもだったら、割引に関係なく、ICカードをタッチしてしまうでしょうね。

・会長

IC機器で、その割引設定ができないので現金としています。当然、グリーンバスは、先に運賃を払うので、乗る前にきちんと周知されてないと、現金ではなく、ICカード

をタッチしてしまうことになるわけです。

・委員

確かに、ICの場合だけ割引にならないのは、システム上などの問題もありますが、前払い運賃の事業者は、非常に頭の痛い悩みどころでもあって、現金50円運賃を知らないお子様がそのままICカードをタッチしてしまうと、50円ではなく、従来の運賃を引いてしまうわけです。自宅に帰った後に、保護者から「なんで割引になっているのを教えてくれないのか」と言われてしまうなど、トラブルの元にもなりかねないので、乗務員は、かなり気を使いながら、乗車するときに「現金のほうがお得ですよ」とご案内して運用しているのが実態です。

・会長

後払いですと、乗っている間に分かれば良い話ですが、何しろ、最初に運賃を払ってしまいますので、最初の段階で間違ってしまうとね。

・委員

そうですね。ここに書いてあるのは、2%弱しか子どもがいないですが、この子どものIC利用者が、こういった割引が入ったときに、おそらく現金に転換することが十分見込めると思います。ただ、どれくらい増えるかは、なかなか難しいところがあります。

・委員

私は、乗務員のことを考えてしまったのですが、期間がずれると大変なのは。西武バスには、グリーンバスだけを運転する人がいるのでしょうか。

・オブザーバー

いえ、一般路線も運転します。

基本的には、市の独自サービスですが、本音を言うと、期間もそろえていただければ、事業者としては、ありがたいです。

あとは、市内で同じバスサービスとして、一般路線も、グリーンバスも、やはり受益者負担の考え方で、本来的には、運賃が平等になっているのが、一番良いと思います。そういった意味で、100円だった運賃を180円にそろえていただけたことは、事業者側からも、ずっとお願いしてきた経緯もありますので、利用者サービスの平等性から言えば、期間や運賃など、そろっていたほうが良いと思います。

・委員

ちなみに銀河鉄道は、夏休みの割引は、どうですか。

・委員

現状この割引は、ありません。

・会長

学校によって長期休暇の期間が異なるので、前後を伸ばしているということですが、本当にそこまでの必要があるのかなという気もします。この前後5日程度の伸ばした設定案は、事務局として、どうしてもそうしたいことですか。

・事務局

そういうわけではなく、前回、委員からいただいた意見を、反映させた期間です。

・会長

長期休暇期間が異なるためというのは分かるのですが、例えば、曜日によって、年によって休みが違う場合があります。果たして、少し長めの期間を設定した結果として、西武バスはこの期間、グリーンバスはこの期間という違いが出る。事業者にとっても、利用者にとっても、それが良いことなのかどうか。私は、正直に言って、少し疑問ですが、いかがでしょう。

・委員

確かにそれは同感です。最初にそれも感じたのですが、何かねらいがあったのかと思

っていました。今は違うかなと思いますが、私は古い年代なので、例えば、夏休みは、7月20日過ぎからという観念が先にあります。本当に15日～21日くらいまでの間に夏休みが始まる場所は、そんなに多いのか、疑問があります。

・会長

私も昔なので、7月21日～8月31日がこの地域で、長野県辺りは、25日辺りで終わると思っていました。実際、今年の夏休みは、学校によって、どうですか。

・事務局

全校を調べたわけではありませんが、夏休みに入る日は、ほぼ一緒だと思います。夏休みの終わりの日が1～2日、学校によって変わるようです。

・委員

逆に今、夏休み短いですね。私の子どもが通っていた市内の学校は、9月1日始まりでしたが、学校によっては、30日、31日始まりの学校もあるようです。

・会長

そうすると、例えば、西武バスのこの実施時期で収まる感じがします。西武バスは、毎年、同じ期間でやっていますか。

・オブザーバー

カレンダーの配列にもよりますが、基本的には、ほぼ変わりません。

・委員

ほかの事業者も、毎年カレンダーが動くと、逆に分かりづらくなってしまふことになるので、ほぼ固定でやっています。車内ポスターも、期間を示して通年で掲出しています。

・会長

実施時期のゴールデンウィークについて、どうですか。今のところ、設定案には、ゴールデンウィークが入っていない形で、西武バスは、ゴールデンウィークが入っています。他社もゴールデンウィーク、入れていますよね。

・委員

設定している事業者は多いです。

・会長

そういう状況の中で、ゴールデンウィークの設定をどうするかですが、これについての意見、いかがでしょう。

・委員

入れないと、事業者が紛らわしくて、大変だと思います。

・委員

西武バスだけのサービスなら、なんでという話になるかもしれませんが、基本的に、大きい会社が同じなのであれば、どこに行っても同じはずですから、良いのではないのでしょうか。

・会長

サービス内容についても、今までの皆さんの意見の中では、小学生、現金50円でやっていきたいと思いますという方向だと思いますが、それに加えて、大人1名につき子ども1名無料をするかどうかです。複数あると、どちらのほうが得なのかをいちいち考えなければならぬみたいな話になってくるので、利用するほうも、少し混乱する感じはします。これについては、今までのところ、あまり積極的な意見はなかったと思いますが、どうですか。

・委員

やるなら、どちらかだと思います。合わせたほうが分かりやすいですし、さすがに紛らわしいですね。

・会長

今までの皆さんの意見を総合すると、期間については、この設定案に示されている期間にしたほうが良いという意見がないので、ゴールデンウィーク含めて、西武バスが設定している期間にそろえて、実施時期を設定する。割引内容については、小学生50円、現金を実施するというので、まとめられます。

この内容を、この会議での合意にしたいと思いますが、よろしいですか。

・ ・ ・ 全会一致（合意） ・ ・ ・

・会長

それでは今、子どもの長期休暇割引について、合意をしていただきましたので、確実に、冬休みからの実施が可能です。今年の冬休みから実施する形で、事務局で今後の準備を進めていただきたいと思います。事務局は、それでよろしいですか。

・事務局

はい、ありがとうございます。

運賃に直接関係しない利用者サービス（市内の公共交通マップ）

・会長

次に、市内の公共交通マップについて、検討したいと思います。

前回までに、市内の公共交通マップを作成し、利用しやすいようにしようということまでは、ほぼ決まっていたのですが、今回初めて、細かいところまでイメージ付けできる資料が配布されていますので、今回はまず、大まかな内容、あるいは見せ方、サイズや折り方、そういったことについて意見をいただいて、最終的には、次回、確定していきたいと思います。

案では、この<資料2>が4倍に拡大されたものが最終版です。今回の資料は、あくまでイメージですので、ここに描かれている地図が、最終的な路線ではありません。いわゆる記載内容や、レイアウトなど、そういう内容が掲載されるというイメージで見ていただければということです。

皆さんの前に、いろいろな地域のマップを議論の参考に用意してあるようですので、良ければ少し動き回って見ていただきながら、意見をいただければと思います。

最終的にこうしますというのは、今日の段階ではできませんので、大きさの問題も含めて、お気付きの点は、今日なるべく出していただいて、次回はなるべく、微修正をすれば実際にスタートできるところまで持っていければと思っています。

お気付きの点、あるいは、こうしたほうが良いという意見があれば、お願いします。

・委員

各戸配布を予定と聞いた気がするのですが、いかがでしょうか。

・事務局

各戸配布にすると、かなりの予算が必要になりますので、今のところ、全戸配布は考えていません。西口の観光案内所など、各公共施設に設置することを考えています。

・委員

逆に、各施設に平置きにして、取ってってもらう方式のほうが枚数、出ませんか。

市内各戸配布ではなく、転入者や来訪者に、手に取ってもらうねらいで作るのか。そこをどう考えていくのか分からないので、お尋ねしたい。

・事務局

コンセプトの部分が大きいかと思います。この公共交通のマップについては、過去にお知らせした範囲でも、例えば、市民のしおりなどの中の1ページですが、これまでもマップを作成してきた話をしてしていますが、今回は、公共交通、バス路線に特化したマップ案になります。基本的には、バス利用者を対象に、利用された公共施設、観光コーナ

ーに配架をして、お手に取っていただければ。全戸配布や、転入者については、市民のしおりに全体的なものが、すでにあります。もう少し詳しく知りたいかたに、今回、提案をしているマップを活用していただくのが、一番良いのかなと考えています。

・会長

全戸配布は確かに、予算的なこともあるかもしれませんが、転入者に関しては、いろいろな案内が入った転入キットの中に含めてしまえば良いだろうと思います。

利用者向けにとおっしゃいましたが、この意味の1つは、公共交通が選択肢になるかどうかです。そういう意味では、まず、こういう情報が少しでも広く行き渡ることが必要で、特に転入者は、初めて東村山市に来るわけですから、その段階で、公共交通の情報を差し上げることによって、公共交通利用が選択肢に上るわけです。そういうことがマップの非常に大きな意味だと思います。

これは私の意見ですが、全戸配布まで予算がなければ、しろとは言いませんが、少なくとも転入者については、転入キットの中に含まれるつもりで考えたほうが良いのではないかと思います。

・事務局

会長おっしゃられたとおり、当市への転入の際に、公共交通、グリーンバスを知ってもらうことは、非常に必要なことだと考えていますので、その辺の対応は、できると考えています。

・委員

周囲から目的を持って東村山市に来ていただくときに、やはり市内の人が使うことのメリット、それから外から来た人が使うことのメリット、2つの面があると思います。

そのときに、このグリーンバスの位置付け、PRも、もっと強く打ち出しても良いのではないのかなと思います。公共交通マップですから、いろいろな見方があると思います。市としての目的に、公共交通全体をPRすることが1つあるとしても、グリーンバスの位置付けも、今までいろいろ検討してきた経過も踏まえて、もっと強く打ち出していくべきではないかという気がします。

・会長

グリーンバスをPRする方法については、マップの表記の仕方によっても、いろいろなことができると思いますので、それはまた意見いただきながら考えていければと思います。1つの目的は、やはり東村山市内の公共交通が、どう走っていて、どう利用していただくかが、非常に大きな目的です。

・委員

この公共交通マップという名称からすると、まさに公共交通のマップが主体になっている感じですが、それのみならず、はっきり言っているいろいろなものが入っている。要するに、一般的な地図に、公共交通が入っているイメージなのだろうと思います。

私は、この小平市のマップが非常に良くできていると思って、前から話をしていたのですが、いろいろな施設をもう少し入れても良いと感じます。でも、これだけ入っている地図は、なかなかないので、非常に便利なマップです。ただ単に、公共交通が入っているだけではなくて、普通の地図と合体したものが一番良いのかなと思います。

・委員

この三鷹市のマップを見ると、実は、サイクル&バスライドという、自転車のことが詳しく載っています。当市にはない制度ですし、自転車は公共交通ではないですが、駅の周りの駐輪場も載せておくと、要するに、移動するとき自転車を使うなら、ここに置きなさいという意味と、自転車が置けないからバスで行くという意味で、駅の周りに載せておくと良いのかなと思いました。

・委員

私が手に取れるところで見えた範囲で、バス自体の紹介が入っているマップもあったので、せっかくグリーンバス、いろいろなラッピングがあるので、「ひがっしー」を使って、そんな紹介を入れると、少し楽しそうになって良いと思います。

さいたま市のコミュニティバスのルートと運賃は、もくじからすぐに見られるので、インターフェイスとして、すごく素晴らしいと思います。

・会長

今後、どういうものを入れ込んでいくか、あるいは、どこまでの施設を入れ込めるかというところも、多分、いろいろ現実的な制約が出てくると思います。これを入れたら、ここまで入れなくてはいけないということもあると思いますので、今後、具体的に何を入れ込んでいくかという議論をしたいと思います。

・委員

この凡例のところに、バスの太さが3種類ありますが、一番太い、平日1時間5本以上は、西武バスのことでしょうか。それから一番細い、平日1時間2本以下は、グリーンバスだろうと思いますが、この真ん中の、平日1時間3～4本は、どちらのバスになるのでしょうか。

・委員

銀河鉄道のバスになります。

・会長

西武バスにも、そういう路線はありますし、それからグリーンバスでも、東村山駅と医療センターまでの間は、該当します。

公共交通を利用する場合、利用する側からしたときの判断基準で、つまり1時間に5本以上は、行って少し待てば来るという感覚ですから、ほとんど時刻表を見る必要がない。そういう利用ができるところと、時刻表を確認したほうが使えるところとの区別の工夫をしているということです。

・委員

非常に言いにくいですが、やはり小平市の公共交通マップは、大きいです。電車の中で新聞を大きく広げて読むのと同じ感覚で、ここまでの大きさのものは、見にくいかなと。以前、会長がおっしゃっていたのですが、果たしてこれを家に貼るのか。

・委員

さすがに貼るまではいかないのでは。

・委員

地図の大きさと細かさが、用紙の大きさを決めることになると思いますし、地図が細かければ分かりやすいとも思いますが、おそらく市内に住んでいる利用者は、当たり前のように知っている地域になりますので、ここまで細かなくても良いのかも。初めて行く人でも、大体の大まかな位置がつかめる縮尺でも良ければ、もう少し小さいマップでも良いのかなと思いました。

少し話がそれますが、東村山のお散歩マップなどに、公共交通、グリーンバスが一切書いてないので、路線があるくらいは、合わせて表記しても意味があると思いました。

・委員

前回、あまりイメージが分からなくて、いろいろ意見を出しましたが、例えば、転入者、それから来訪者、バスの案内を必要としている人を中心に考えるのであれば、現状、かなり簡略化した内容で良いのではないかなと思います。あえて言うと、A1までやる必要があるのかどうか疑問です。

例えば、転入者向けの全市案内が別にあります。そういうものと合わせるのであれば、重複する内容は、こちらには載せない。こちらでもできるだけ簡略化して、あくまで公共交通の案内だけに集中してしまうと割り切るのも、1つの考えだと思います。

そういう意味では、このA3程度で、中身を整理していくでも良いのではと考えます。

・委員

観光スポットは、この中には入れないのでしょうか。

・事務局

凡例で表示できればと考えています。おそらくスペース的に、細かい説明を入れ込むほどのスペースが難しそうなので、凡例で表示しておいて、詳細は、QRコードで、簡単にアクセスできるようにして、ホームページで見ていただくことを考えています。

市内の公共交通マップ、コミュニティバスを含むバス路線を中心にしつつ、産業・観光スポットの表示も、どこまでのボリュームを載せるかによって、簡単にパッと開いて見える1枚タイプで収めるのが良いのか、それとも、もっと大きなサイズ、さらには、冊子になっているものが良いのかということになってくると思います。

当然ですが、大きくなったり、冊子タイプになったりすれば、その分たくさんの情報が載せられると思いますし、案として出しているバス路線とは違い、いわゆるバス以外のほかの情報も、かなり載せられるものになると考えています。その中で、例えば、簡単に持ち運びができる、簡単に開いて見えるものにすると、内容やスペースが、どうしても限られてきてしまうと思いますので、どの程度まで載せていくかも考えていただければと思っています。

・委員

誰がグリーンバスを使うかと考えると、やはり現実問題として、割と年代の高い人が多いと思います。

この地図ができた際は、今の案だとA1サイズです。小さい地図でも良いが、多分これを持ってどこかに行くというのは、まずないと思う。家で確認をするときに、私は、たたためておけるなら、大きいほうが良いかなというイメージです。

あとは、ある程度、若い人は、スマホを使えるだろうし、地図がなくてもOKだと思います。だから現実に使っている年代・層に合わせて、そこを想定して地図を作れば良いと思うので、ここに病院などを載せておくと、一番良いと思います。

・会長

おそらく、かなり縮小した状態で、このイメージなので、実寸でのイメージだと、かなりの情報が入れますね。例えば、観光スポットや病院などを記号で出して、その名前を入れるぐらいのことは、多分、問題なくできます。そういう意味では、例えば、A2サイズだとしても、かなりの情報と見やすさは、確保できることは言えると感じます。ものすごく路線が複雑かつ集密な地域であれば、やはり大きくないと、どこを走っているか分からないですが、そこまではないので、このA3サイズでも、路線がどこを走っているかの判別はできれば、本当にA1まで必要なのかという疑問はあります。かといって、A3サイズにバス停を入れていくパターンだと、かなり小さい文字になり、本当に読めるかという話になるので、その兼ね合いで、サイズを検討する必要があるという感じです。だから、市内の施設や、観光スポットの情報を入れることは、それなりに可能だということは、このイメージ図を見て予想はできますから、可能な限り入れていくべきだろうと思います。

・委員

そもそも、この公共交通マップを作る目的は、グリーンバスの利用促進ではなく、あくまで市民のサービスをはかるために作られるということですから、確かに見ため、主要駅の時刻表が載っていて一目で分かるので、使い勝手が非常に良いと思いますが、西武バスのダイヤ改正に合わせて、適宜、修正を加えなければいけないので、手間がかかってしまうところが少し気になりました。

他市では、コミュニティバスの利用促進のために、すべてのバス停の時刻を入れたり、

名所や観光スポットを入れたり、それぞれ時刻表を三角表やマトリックスにして表示しているところもありますので、着眼点としてそこがすみ分けされていけば問題ないと思いますが、それによってレイアウトは変わってくると思います。

・委員

これを最初に刷る時期は、いつぐらいを想定されていますか。なぜかと言うと、美住・富士見路線の検討が進んでいるので、これを刷り終わったあと、また刷り直しとなつては、それぞれ税金の無駄遣いになると思うので、そういった意味で聞きたいです。

・事務局

この公共交通マップ作製は、平成28年度を考えていまして、これから予算要求をしていくこととなります。新規路線も、平成28年度の実証運行を目指して進めてはいますので、できるだけタイミングを合わせて、実証運行を開始できたあとに、表示できればと考えています。

・委員

東村山市の助け舟ではないですが、来年度から刷るということは、要するに、実は今、予算要求しなければいけないので、最低限、最初に決めるべきは、多分、大きさだと思います。それから枚数。全戸配布ではないので、大体どれぐらい刷るのか、把握されているとは思いますが。

まず大きさが優先で、それから次に、中身を入れ込んでいければ良いと思うので、まずは、冊子なのか、ここに書いてあるA1なのか。もちろん、両面だと思うので、大体の金額が出る。

1回小さくしてしまうと、大きいサイズには、もう元に戻れませんから、今一番大きい案で予算要求しておけば、なんとかなります。

・会長

確かに、手法としては、そうですね。

・委員

仮に冊子型であれば、全体像があって、次に各路線の拡大図という形ですか。

・会長

冊子にすれば、そうですね。どうですか、冊子は。

・委員

冊子は、ものすごく見づらいと思います。やはりこういう小平市の、パッと全体をすぐに見られる地図のほうが、すごく見やすいと思います。

・委員

冊子なら、スマホで良いので、スマホで十分ではないときに、やはり大きなものが良いという感じです。

・会長

マップは、複数の要素を一覧できるということが非常に大きな要素です。やはりスマホで見るデータは、ある程度、特化した内容です。そういう点からすると、マップは、例えば、近くを通るほかの路線、あるいは、この施設の近くを通る路線が一覧で見られるというメリットが非常に大きい。だから、スマホ時代の中で考えるならば、やはりマップのメリットを十分に活かせるものにしていく必要はあるかなと思います。

・委員

バスに乗って、ある1箇所だけ行って、往復して帰ってくるだけという使い方もアリだと思うし、例えば、市内のふるさと歴史館に行って、バスの通っていない西側まで歩いて行って、またバスに乗るといった仕組みも分かると思うので、いろいろな使い方も確認できる。大きければ大きいほど、やはりイメージがわかりやすいし、いろいろな情報が入ってくるので、個人的には、大きいほうが良いと思います。

大昔だと、家が大きくて、壁に貼っておける感じですが、これは、きちんと折り曲がるし、用があるときに出せる。

・委員

そのとおりだと思います。いわゆるグルメと一緒にいるマップは、実際に持ち運びながら行く可能性があると思います。そういうのは、割と省略型であるべきかと思えますし、公共交通マップとしての使い方、それから、使われる人の年齢層を考えたときは、ある程度のサイズも必要かなと思いました。

・委員

大きいほうが良いかもしれませんが、私はこの倍くらいの、A2くらいの大きさで、うまく表示できれば良いのではないかと思います。

・会長

積極的に、もっと小さいサイズのほうが良いという意見は、ありますか。特になければ、原案の大きさ、A1をベースに考えるということで進めましょうか。

・委員

良いのではないのでしょうか。

・事務局

このマップについては、皆さんからご提案をいただいて、他市の例や、既存のマップとして、市民のしおり、ほかの各所管が作っているマップも含めて、ご案内・報告をしたつもりです。その中で、グリーンバスだけではなく、公共交通全体としてのビジュアル的なマップが必要だろうという、これまでの意見を踏まえて、今回、縮小版ですが、事務局で整理をした経緯があります。

確かに、持ち歩きとか、冊子ということではなくて、大きいマップですと、パッと見たときに入れられる情報もそれなりに出てくると思いますが、入れられるもの、入れられないもののバランス、ほかのマップとのすり合わせもありますので、本日、皆さんから改めていただいた意見も踏まえて、もう一回、事務局で整理をして、来年度、予算が確保できるように努めていきたいと思えます。

・会長

折り方は別に、今、決めなくても良いですが、どちらにしても、何らかの形で折らざるを得ないので、イメージ見本の折り方についてはどうですか。折り方でも使い勝手が変わってきます。＜資料2＞は、縦に折ってから屏風折りにする形です。小平市は、確か、先に屏風折りをしてから、2つに折っていたと思えます。

・委員

小平市は、最初に縦に開くタイプですよ。今予定されているサイズであれば、私は、小平市の折り方よりも、市が用意した折り方のほうが、大きい場合は、横に広げてパラパラっと見やすいのかなと思えます。

・会長

当然、いろいろなメリット・デメリットがあります。

例えば、＜資料2＞ですと、開いた状態でマップ面を裏返すと、データが反転してしまうので、上下逆に見なければいけない。小平市のやり方だと、それはない。

その代わりに、折ったときに、表紙などをうまく整合させようと思うと、小平市より東村山市のやり方のほうが、やりやすい。

これは今、決めなくてはいけないことではありませんので、帰ってから、小平市式の折り方と、どちらが良いのかも考えてみていただければと思います。

公共交通マップは、今年度に準備をして、来年度の印刷・発行という形になりますので、今後もまた、お気付きの点等を事務局へお寄せいただくか、次回また、意見を出していただければと思います。

その他

・会長

続きまして、その他について、事務局からお願いします。

・事務局

美住町・富士見町ルート地域組織案について、6月に2回、警視庁本部と協議をおこない、現在、警視庁本部・東村山警察署と、なるべく早い時期の実査に向けて、調整をおこなっているところです。協議がととのいましたら、バス停付近の住民等に同意をいただき、需要調査へと進める予定です。大まかなスケジュールとしては、まだ不確定要素はありますが、可能であれば、現在の委員の任期中に、実証運行の可否判断まで進めたいと考えています。

恩多町地域から、新規路線の導入について相談を受けました。まずは地域組織の設立を目指すため、自治会を通じて地域ニーズの把握をしていただき、地域内の協力体制を確立していくこととなりました。

この会議の委員の任期は、平成27年12月5日までとなっていて、今年度が改選期に当たります。16名の委員中、市民委員4名については、公募をおこない、現委員の任期満了に合わせて改選していくこととなります。予定としては、9月1日号の市報で市民委員の公募をし、選考した上で、就任依頼をする予定です。また、ほかの委員につきましても、職業上、または役職上に当てた形をお願いしていますので、また改めて就任依頼をします。

・会長

美住・富士見については、これから実査をする段階だということですね。

・事務局

そうです。今、警視庁の担当と、日程の調整をしています。

・会長

順調に進めば、次の会議で、かなり具体的な話になりますか。

・事務局

はい。次回の会議の開催時期を、10月の終わりから11月と考えています。当然、可能であれば、現在の委員の任期中において、その実証運行の可否の判断まで進めたいと考えています。ただ、あくまでも予定となっていますので、前後してしまうかもしれませんが、事務局としては、そこを目標として考え、進めていきたいと思っています。

・会長

マップの議論も、できれば現委員で、もう少し具体的なところまで進められれば、ありがたいので、任期中に1回、次回ができればと思います。

### 3. 閉会

・会長

それでは以上で、本日の議題はすべて終了しました。これをもちまして、平成27年度第2回東村山市地域公共交通会議を閉会します。今日はお忙しい中、また暑い中、お集まりいただきまして、ありがとうございました。